

活動レポート

道央技術士会

「平成18年度道央技術士協議会活動報告」

はじめに

道央技術士協議会では2006年度の活動として、2回の見学会及び講演会と総会を企画、実施しました。以下、活動内容を簡単に報告します。

1. 2006年(平成18年)11月14日(火曜日)

講演会と港湾工事現場見学

- 1) 講演会「港湾技術の創成期に学ぶ」——技術者の心得

講師：上原泰正 氏

北日本港湾コンサルタント(株)社長
(元(株)寒地港湾技術研究センター理事長)

開催場所：苫小牧工業高等専門学校

時間：13時00分～14時00分

※ 苫小牧工業高等専門学校環境都市工学科の先生と生徒約40名、当方8名が参加した。講演内容は小樽港、函館港の築堤に携わった廣井勇の足跡である。講演の最後に廣井勇が、土佐国種崎に野中兼山が築いた波止が二百年後(安政元年)の大津波から種崎村を守ったことをたとえとして「實ニ技術者千歳ノ榮辱ハ懸テ設計ノ上ニ在リ」(技術者が千年にも亘って問われ続ける誉れと辱めとは、設計の立て方にかかっているのである。そのための用意は、よく行き届いて遠大なはかりごとでなければならない。よろしく悟るべきである。)との話があり印象的であった。

- 2) 港湾工事現場見学会

工事名：苫小牧港西港区勇払—12m岸壁改良工事

施工者：清水建設株式会社

場所：苫小牧港西港

時間：15時00分～16時00分

※ 室蘭開発建設部 苫小牧港湾事務所において護岸工事現場の見学をさせていただいた。工事の概要は老朽化したコンクリート岸壁の補修と船舶の大型化に対応するための改修工事である。主な作業は海底の地盤改良(薬液注入) 矢板背後の薬液注入で矢板は打ち換えず、電気防食を行う。取り壊しに約2週間、コンクリートの打設に2週間くらいかかる(1工程)。主な船舶はチップ船で、係留中は作業ができない。当日もパナマからのチップ船が係留しており、作業は休止であった。平成19年3月完成予定とのことである。

2. 2007年(平成19年)3月5日(月曜日)

自然観察及び講演会

- 1) 自然観察：ウトナイ湖周辺での自然観察
嵐模様の雨天のため残念ながら自然観察は中止となる。
- 2) 講演会「野鳥の会の活動」——地域自然環境保全への取り組み

講師：原田 修 氏

(株)日本野鳥の会

サンクチュアリ室ウトナイ湖サンクチュアリ チーフレンジャー

開催場所：ウトナイ湖サンクチュアリ

時間：14時00分～16時00分

※ 自然観察はあいにくの天候で、中止となったが室内から望遠鏡でオオワシとオジロワシが観察できた。例年3月の下旬にはマガンが数万羽飛来するが、今年は暖冬の影響でこの時期に(3月初旬)飛来している。食事のため早朝からむかわ、平取町方面へ出掛けているのでこの時間帯にはいなかったが、夕方には大群で戻ってく

るそうである。ちなみにマガンの個体数の計測は朝飛び立つ時に百羽を1単位とし、複数人で数えるとのことである。

講演ではウトナイ湖でも外来植物や動物（アライグマ）が既存の生態系に影響を与えかねない状況にあり、道がアライグマ捕獲罠を民間委託で今年も設置する。現状どのくらいの個体数があるかは、まだ把握していないようである。

3. 2007年（平成19年）3月29日（木曜日）

平成18年度道央技術士協議会総会及び講演会

開催場所：ホテルサンルート室蘭

時 間：18時00分～20時00分

1) 講演会「学校ビオトープの取り組み」

講師：長谷川哲也 氏

（有）イーシステム 代表取締役

当会会員である長谷川さんが、ボランティアで参加している苫小牧東小学校でのビオトープの取り組みについて講演していただいた。ビオトープ（生物が住める水辺などの環境を人工的に造成した場所）の池に水中カメラを設置して

レビ画面に映る元気な魚の様子を児童が見えるようにした。苫小牧東小学校は2006年度ドコモ環境教育活動助成校に選ばれており、2007年度の活動は池の改修と水質改善で、地域とのかかわり促進（観察会、懇談会）をめざしているとのことである。

2) 懇親会

センター事務局次長の森さんからセンターと支部の統合、技術士のCPD等連絡事項があった。その後、情報交換会となり和やかなうちに予定行事も終了し再会を期して散会となる。

おわりに

以上、簡単ですが道央技術士協議会の2006年度の行事を紹介しました。

道央技術士協議会事務局 遠藤清武

（アルファ計画株式会社）

〒059-1272 苫小牧市のぞみ町1-3-14

TEL 0144-67-6848

FAX 0144-61-2355

E-mail k.endou@alphaproject.co.jp